

熊本農高が最優秀賞

熊本市

高校生が生物や環境、食品などバイオ分野の研究成果を発表する「バイオ甲子園2019」が23日、熊本市中央区の市国際交流会館であり、最優秀賞に

校が発表した。

食品廃棄物を利用した養豚の飼料について研究した熊本農業高畜産

科が選ばれた。県内の食品会社や研究機関など産学官でつくるバイオテクノロジー研究推進会（会長・寺本祐司崇城大教授）が毎年開いており28回目。今年は9県25チームの応募があり、予備審査を通過した7県11

熊本農業高は、飼料費が養豚経費の半分以上を占め、7割を輸入していることに着目。納豆の製造時に出る大豆皮など6種類の食品廃棄物を使った飼料を豚に与え、肉質、発育速度の改善と飼料費の大幅な削減を実現した。

審査を通過した7県11

優秀賞は南部農林高バイオテクノロジー部（沖縄県）と国分高サイエンス部2年生物班（鹿児島県）だった。熊本市の江津湖に生息するコサギの採食などの生態について報告した真和高生物部コサギ班は、特別賞を受賞。宇土高生態研究班は、食害によって放出されるクスノキの香り成分などについて発表した。

（深川杏樹）



バイオ甲子園2019で最優秀賞を受賞した熊本農業高畜産科の生徒ら。食品廃棄物を利用した養豚の飼料について発表した＝熊本市中央区。